

# 支援機器相談シート

相談日 R4年 7月 1日  
担任名 梅村 朱実

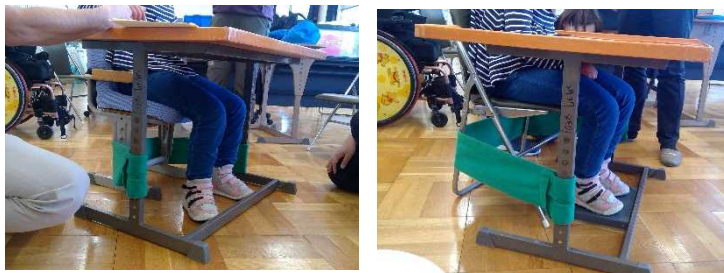
小学部 4年

|      |  |
|------|--|
| 相談内容 | <ul style="list-style-type: none"><li>・成長によって車椅子が体に合わなくなり、来年製作予定であるが、どのような車椅子にしたらよいか相談したい。</li><li>・現在の車椅子やバギーは、乗っている姿勢が悪くなって体が傾いたり、前のめり（極端に前傾姿勢）になったりする。姿勢を直すにはどうしたらよいか。</li><li>・教室の椅子にうまく座れないことがあるため、どうしたらよいか相談したい。</li></ul>   |
| 相談結果 | <p>夏休みに現在の車椅子の座面と幅を直した。<br/>青い鳥医療療育センターで診てもらい、アルテック製のものを使用している。</p> <p>○現在の車椅子の課題点と改善点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ひじ掛けの位置が低い。<br/>→体が左側に傾きやすくなる。<br/>もう一段階高さを上げられるので調整するか、クッションやタオルなどをかませ調整すると姿勢が改善される。</li><li>・コルセットが新しく、大きくなった。<br/>車椅子のフレームに体が当たったり、隙間が空いたりして、体が前傾しやすい。<br/>→背もたれのフレームの角度を後傾させる。<br/>新しいコルセットをつけた状態で楽に座れるように、車椅子背面のベルトを調整し、前傾しないようにする。（アクティブバランスシーティング）</li><li>・自走タイプの車椅子で、タイヤに指を挟んでしまうことがある。<br/>→タイヤの大きさはそのままにして、フルカバーを付ける。<br/>または、タイヤを小さくして、横へのスライド移乗をしやすくすることもできる。<br/>その場合は、車軸が後方になることで、移動時の介助がしにくくなることが想定される。</li><li>・骨盤ベルトが前方にあり、効いていない。<br/>→調整可能であれば、位置を奥の方へ調整する。ベルトの留め方も骨盤をしっかりと固定できるように意識する。骨盤に対し、斜め45度くらいの角度で留める。</li></ul> <p>○今後の車椅子の製作に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・成長に伴う移乗時の介助負担が増えてくるため、介助のしやすさや生活のしやすさを意識した車椅子作りができるとうい。</li><li>・フットレストは、跳ね上げタイプか、取り外せるタイプがよい。</li></ul> |

- ・ひじ掛けは可動式で、フラットなものにすると肘が置きやすくなり、姿勢が安定する。
- ・体にフレームが当たることがないようにする。車椅子を大きくすることで、大体のことは解決できる。
- ・骨盤ベルトは今後もあるとよい。
- ・コルセットを着けているときの背面の収まりや、膝裏まで座面があるか、高さが合っているかなどを確認しながら製作するとよい。成長に伴い、今の車椅子では体に負担がかかってきているため、早めに作り直せるとよい。

#### ○机・座位保持椅子の課題と改善点

- ・児童用のひじ掛け付きの椅子に、座位保持シートを取り付けているが、浅く座る状態になっている。
  - シート、コルセットの厚みがある分、座面の長さが足りていない。
  - 椅子の座面に対し、シートが前に大きく出ており、奥まで座れず危険。
  - 椅子自体も小さいため、幅・高さともに40cmほどあるとよい。
- ・給食の際に、座位保持椅子とテーブルを使用している。
  - 補助具の付いたスプーンを使って自分で食べている。改善点はあるか。
  - カットアウトテーブルをしっかりと体に近づけ、テーブルに肘をつけて体を支えられるようにするとよい。自分で腕を動かしやすくなる。
  - 足をしっかりと床に着けられるように、足の置き場を安定するような工夫をするとよい。



#### ○その他

青い鳥医療療育センターの整形・リハビリの担当者も現状をよく知っており、どうすればよいかを理解されているため、体の状態を見ながら相談して進めていくとよい。